

はこやなぎノ葉莢花ニ於ケル分枝現象

久 内 清 孝

Kiyotaka HISAUCHI: *Populus Sieboldii* Miq. with branching aments

昭和 9 年 3 月 18 日中井博士ト武州横濱へ採集ニ行キ同市戸部縣立第一中學校ノ裏山ニ於テはこやなぎノ雄本ニ接シ、中井博士ノ採ラレルマヽニ余モ其ノ一枝ヲ採リ歸宅後精査シタルニ其一二花穂ニ分岐性アルヲ認メタルモ尙充分成長セザル花穂ニ在リテハ分岐ノ個所判然セザルヲ以テ更ニ 3 月 26 日同一個體ニツキ觀察シタリ其折採集シ來リシモノガ此處ニ撮影シタルモノナリ。此個體ハ大部分ノ枝ニハ通常ノ葉莢花ヲ著クルモ某枝ニ於テハ基部ニ於テ分岐性ヲ有スルモノヲ發現スル傾向ヲ有スモノ、如ク觀察サレタリ。

却説、然ラバ分岐ノ方法如何ト云フニ花序ノ基本軸ノ縦斷ニ依レバ決シテ基本花軸ト並行ニ別ニ花軸ノ發生ヲナス爲メニアラズシテ花軸ニ著生セル一花ノ柄ガ伸長シ ($1-3/2$ cm = 達ス) 更ニ其柄ニ各ノ托葉ヲ有スル數個ノ花ガ出現發達セルニ依ルモノナリ從ツテ樺木屬ニ於ケルガ如ク同一節 (node) ヨリ數花穂ヲ懸垂セルモノト同一トハ考ヘラレズ。

サレバ此場合ニ於テハ基部ニ於テ複穗狀ニナリタルモノニシテ若葉莢花ノ全部分ガ此ノ形狀ヲ呈スルニ至リタル場合ヲ想像スレバ驚嘆ニ値スル形狀ノモノヲ發現スルニ至ルベキモノナルベシ。

尙圖中左翼ノモノハ同一個體ヨリ得タル常態ノモノニシテ右三個體ハ同一個體ヨリ得タル分岐性ヲ有スル場合ヲ示スモノナリトス。

尙柳屬ノ葉莢花中ニモ多枝現象ヲ現ハスコトアルモ其場合ニ於テハ多クハ花序ノ基本軸ガ分岐スルモノニシテ今此處ニやまならしニツキ述ブル場合トハ若干ノ相違アル事申ス迄モナシ。

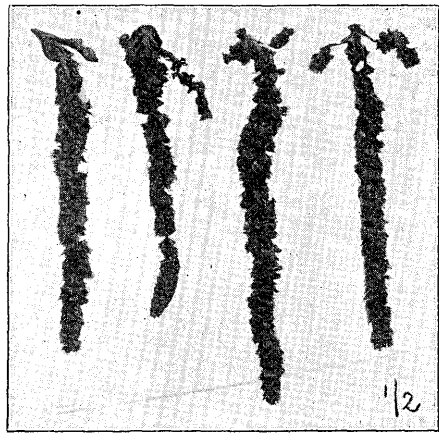


Fig 1. Male aments of *Populus Sieboldii*
The right is a normal ament while the others branching at the base.

Summary

I have found a male tree of *Populus Sieboldii* Miq. which bears some branching aments intermingling with the normal ones. The branch is formed by development of an elongated pedicel on main axes and the longest branch reaches $3\frac{1}{2}$ cm.

稀藓くまのどけニ關スル研究ト考察

植 村 利 夫

T. UYEMURA: On a novel moss, *Theriotia lorifolia* CARD. from Japan

I. 序説 最初紀州熊野で發見サレタルガ故ニくまのどけノ和名ヲ有スル *Theriotia lorifolia* CARD. ナル藓ハ、⁽¹⁾ 日本特産ノ珍藓タルコトハ苟モ藓苔研究家ノ周知スル所デアルガ、尙コノ藓ガ一般ニ興味ヲ以テ見ラレテ居タ所以ガ他ニアル。夫レハ此ノ藓ニハドウシタコトカ減多ニ子囊ガ發見サレナイト云フコトデアル。多クノ先輩ノ書イタ文献ニ徴シテモ此ノコトガ領カレル。即チ子囊ニ關シテハ何等ノ記載ヲ爲シテ居ナイノデアル。但シ CARDOT 博士ノ原記載ニハ幾分書イテアルソウデアルガ、予ハ不幸ニシテ未ダ其ノ原文ヲ入手スルコトガ出来ナイ。故ニ其ノ原記載文ガ如何ナル程度マデ此ノ藓ノ子囊ニ就テ記シテ居ルカト云フ點ハ想像スル由モ無イガ、兎ニ角日本人ノ手ニ依ツテ記載サレタルモノハ予ノ淺學ノ爲カ未聞ニ屬スル所デアル。而シテ予ハ今回稍々發育不完全デハアルガ此ノ藓ノ子囊ヲ採集スルコトガ出来タノデ、ココニ其ノ觀察大要ノ紹介ヲ兼ねテ本論文ノ起稿ヲ思ヒ立ツタ次第デアル。

II. 分布 今日マデニ報ゼラレテ居ルくまのどけノ分布状態ハ紀州熊野ノ他ニ朝鮮、四國(飯柴永吉氏)、安藝⁽²⁾(笹岡久彦氏)、伊勢(岡村周諦氏)等デ

(1) 先輩宇井縫藏氏ヨリノ御教示ニ依レバ、*T. lorifolia* CARD. ノ最初ノ發見地ハ朝鮮ニシテ、佛國ノ CARDOT 氏ニ依リ新屬新種トシテ記載サレシハ 1904 年、第二ノ產地ハ紀伊十丈峠ニシテ宇井氏ノ採集ニカリ時ハ明治四十二年三月ナリトノコトデアル。故ニくまのどけナル和名ハ内地ニ於ケル最初ノ發見地ヲ記念シテ命ゼラレタモノデアル。

(2) 野口彰氏著「廣島附近産藓類目錄」ニハくまのどけノ產地トシテ五日市ナル地名ヲ記シテアルトノコトデアルガ(宇井縫藏氏ヨリノ御通信)予ハ未ダ拜見シテ居ナイ。